

感染症科

1. スタッフ体制

医師：

羽田 敦子	感染症科部長、感染制御対策室室長、小児感染症部門部長
饗庭 明子	血液内科副部長
松村 拓朗	総合内科医員
吉富 摩美	消化器センター外科副部長

看護師：

高詰 江美	感染管理認定看護師（専従）
堂後 鈴子	感染管理認定看護師（兼任）、看護師長
高木 朱美	専任衛生管理者、看護師長

薬剤師：

三宅 麻文	薬剤部係長
上田 覚	感染制御認定薬剤師、抗菌化学療法認定薬剤師、薬剤部係長
伊東 祐喜子	

臨床検査技師：

宇野 将一	臨床検査技師部主任
中塚 由香利	

事務：

松下 俊将（～平成 25 年 5 月）	主任
西藤 悠佳（平成 25 年 6 月～平成 26 年 1 月）	
中村 佳代（平成 26 年 2 月～）	

2. 平成 25 年度の院内感染症に関する取り組み

（1）感染制御対策室業務

① 院内感染事例、院内感染発生率に関するサーベイランス等の情報分析・評価

i) サーベイランス体制の強化

- ・薬剤耐性菌サーベイランス：判定基準に従い、薬剤耐性菌及び監視微生物（セラチア・セパシア）の検出状況を、細菌検査室からの報告をもとに集計を行った。必要時、現場介入を行い、接触感染対策の強化を図った。また、厚生労働省院内感染対策サーベイランス事業（JANIS）には、全入院部門、細菌検査部門、NICU部門で報告を行った。
- ・CLABSI サーベイランス：前年度に引き続き、結果と共に現状の問題点及び改善に向けた提案事項をまとめ、現場へフィードバックを行った。
- ・手術部位感染サーベイランス（SSI）：消化器外科、脳神経外科、整形外科を対象に、術後に発生する手術部位感染（SSI）のリスク因子ごとの発生率やその原因菌に関するデータを収集した。次年度は JANIS の SSI 部門への参画準備に着手し、対象を外科系全科へ拡大予定。

ii) 職業感染防止の強化

針刺し等による血液汚染事故報告件数は、前年度よりわずかに減少した。今後も衛生管理委員会主催の血液等汚染事故勉強会を定期的に開催する。

② 院内感染防止対策の実施状況の把握・指導

i) 手指衛生回数の推移状況の把握

手指消毒剤請求数および手指衛生回数グラフをリンクナース会、師長会等でフィードバックするとともに、使用促進に向けた啓発を行った。

③ 抗菌薬の適正使用の推進

i) 抗菌薬ラウンド

管理抗菌薬使用患者及び血液培養陽性患者をリストアップし、毎週木曜日に病棟ラウンドを行い、患者の病状や抗菌薬の使用状況の確認および感染症治療の指導を行った（平成 25 年度 2395 件、平成 24 年度 2059 件）。また、多剤耐性菌検出患者等も、必要に応じて環境ラウンドと感染対策の遵守状況確認、指導を行った。

ii) 抗 MRSA 抗菌薬・広域抗菌薬の使用状況の確認

抗 MRSA 抗菌薬については、TDM を通して使用状況を確認し、適正使用を推進した。TDM 症例でコントロールに難渋する症例や長期投与症例については、抗菌薬ラウンドの際に ICT にて検討し、診療支援を行った。

TDM 対象外の抗 MRSA 抗菌薬や広域抗菌薬については、各病棟での使用状況を病棟薬剤師が監視することで、使用状況を確認した。また、使用方法に疑問があれば抗菌化学療法認定薬剤師・感染制御認定薬剤師が相談に応じた。その際に解決できない症例については、抗菌薬ラウンドでの ICT による検討、感染症専門医への適宜相談等を行い、抗菌薬の適正使用を推進した。

④ 感染対策マニュアル・規程の更新・周知

院内規程を見直し、以下の改訂を行った。

全面改定：感染対策マニュアル（平成 25 年 4 月）

改訂：院内感染対策指針、院内感染対策委員会規程、感染対策マニュアル（平成 25 年 9 月）、感染症発生報告書

⑤ メールマガジンの発行

平成 26 年 1 月より、スタッフへの感染症対策の周知・情報提供を目的に、メールマガジンを週次発行した。

Vol.	発行日	タイトル
1	25 年 1 月 24 日	ノロウイルス感染対策
2	25 年 1 月 31 日	鳥インフルエンザ A(H7N9) 情報
3	25 年 2 月 7 日	院内インフルエンザ患者減少傾向
4	25 年 2 月 21 日	職員インフルエンザ対応
5	25 年 2 月 25 日	手指衛生 5 つのタイミング
6	25 年 3 月 7 日	手指消毒消費グラフ
7	25 年 3 月 18 日	ICT ラウンドのご紹介
8	25 年 3 月 25 日	院内インフルエンザ情報

⑥ 職員研修の実施

下表 1 のとおり院内研修会・講演会を開催し、職業感染防止策や手指衛生、感染制御対策について講義を行った（参加者延べ 590 名）。

⑦ 院内感染対策委員会

院内感染対策委員会を月 1 回（計 12 回）定例開催した。

- ・定例報告：耐性菌の動向、カテーテル感染、手術部位感染、新規耐性菌感染患者、血液汚染事故報告、結核報告、抗菌薬の使用状況、病棟別手指衛生状況
- ・報告及び審議事項：感染症対策関連（実習生に対する感染症対策、多剤耐性菌発生時の対応、結核菌検査の流れと結核患者発生時の対応、MRSA のアウトブレイク、リネン汚染対応、外来患者向けの手指消毒剤設置）、ラウンド・サーベイランス関連（ICT 環境ラウンドの実施、SSI サーベイランスの対象科拡大）、システム関連（患者プロフィール感染症表記）、採用薬・備品等の切替（採用薬の見直し、ハンドソープ切替、N95 マスク切替）、手順見直し（職員インフルエンザ発生時の対応、時間外の結核菌 PCR 陽性時の報告手順）カンファレンス・セミナー関連（合同カンファレンス開催報告、院内研修・セミナー案内）等

⑧ 感染防止対策地域連携医療機関との合同カンファレンス

昨年度から引き続き、感染防止対策加算 1・2 の施設基準要件に沿って、地域連携医療機関との合同カンファレンスを各 4 回開催した。いずれも自院の感染対策を客観的に評価し、問題点に目を向ける機会となった。

i) 院内感染防止対策加算 1 カンファレンス（平成 26 年 1 月、2 月）

開催場所：平成 26 年 1 月…済生会中津病院、平成 26 年 2 月…当院

カンファレンス内容：各施設の感染対策マニュアル等書類確認および聞き取り、現場ラウンドおよび評価、講評

サーベイランスデータ、ICT ラウンド、検査業務について一部指摘され、改善へ着手した。

ii) 院内感染防止対策加算 2 カンファレンス（平成 25 年 6 月、9 月、12 月、平成 26 年 3 月）

開催場所：いずれも当院

カンファレンス内容：耐性菌検出状況（MRSA、MDRP、ESBL）、院内感染対策（手指衛生回数、消費量）、抗菌薬使用状況報告に加え、職種別情報交換の場を確保するとともに、当院 ICT による環境ラウンドの実施提案があった。

表1. 平成25年度に開催した医療関連感染管理／職員研修・教育実施

★は臨時開催

研修計画					実施記録
月	日	研修内容	講師	対象者	演題
4月	1日(月)	新入職員オリエンテーション	感染制御対策室	医師	感染管理
	3日(水)	新入職員オリエンテーション	感染制御対策室	新入職看護師	感染管理の基礎知識
	4日(木)	新入職員オリエンテーション	感染制御対策室	新入職事務 コメディカル	感染管理
	9日(火)	新入職員オリエンテーション	感染制御対策室	新入職看護助手	感染管理について
	10日(水)	B型肝炎再活性化防止 プロジェクト	感染制御対策室	全職員	B型肝炎再活性化防止プロジェクト
5月	1日(水)	★新入職員オリエンテーション	感染制御対策室	新入職員	感染管理について
	14日(火)	感染症の基礎から学ぶ講習会	群馬大学 微生物学教室 池 康嘉 名誉教授	全職員	①細菌学
	15日(水)				②抗菌薬
	21日(火)				
	22日(水)				③耐性菌
	28日(火)				
	29日(水)				
6月	1日(土)	グラム染色実習	検査部細菌検査室	医師	喀痰「グラム染色&鏡検」について
	4日(火)	第3回感染症科院内研修	日本ベクトン・ ディキンソン株式会社	医師	第1部:血液培養勉強会 第2部:薬剤耐性菌の治療 第3部:実習 薬剤耐性菌検出者への対応
	17日(月)	血液等汚染事故に関する講演会	感染制御対策室 衛生管理者	全職員	血液汚染事故現状と対策 ～平成24年度 当院の実態を踏まえて～
7月	1日(月)	★中途採用者オリエンテーション	感染制御対策室	中途採用者	感染管理
9月	28日(金)	グラム染色実習	検査部	医師	尿検体「グラム染色&鏡検」について
11月	19日(土)	SR向け講義	感染制御対策室	SR	「抗菌薬」2013
2月	21日(金)	北大阪感染症研究会	感染制御対策室	全職員	一般講演: 「脳腫瘍の治療に難渋した播種性ノカルジア症」 「PCR ribotype 027菌クロストリジウム・ディフィシル劇症型腸炎」 「当院におけるB型肝炎ウイルス再活性化防止対策 ～検査情報抽出ツールを用いたアラートシステム～」 特別講演: 「免疫不全者の感染症臨床」

(2) 感染症科業務

① 感染症診療コンサルテーション

主に院内感染症に対する抗菌薬選択、投与期間等について、延べ 2402 件のコンサルテーション対応を行った。

② B 型肝炎防止プロジェクト

前年度に引き続き、免疫抑制・化学療法により発症する B 型肝炎再活性化防止対策として、対象診療科の医師宛に延べ 3870 件の検査勧告メールを配信した。

対象：抗癌剤、免疫抑制剤、抗リウマチ剤、ステロイド（中等度以上長期にわたる症例）投与患者のうち、HBs 抗原、HBc 抗体、HBs 抗体検査が未実施の患者

3. 研究実績－論文・学会発表のテーマ・発表者

(1) 研究

① 取得科学研究費

② 文部科学省科学研究費補助金（基盤研究（C）、2010-2015）

③ ワクチンによる糖尿病患者における水痘帯状疱疹ウイルス特異的免疫反応の検討（研究代表者：羽田 敦子）

(2) 著作

① 透析スタッフ 2013 Vol.1 No.3 医学出版

ウイルス性感染症に用いるクスリ～抗ウイルス薬（インフルエンザ・ヘルペス）/ワクチン（インフルエンザ・肺炎球菌・B 型肝炎）～ 薬剤部 感染症科 上田 覚

(3) 論文

- Safety, humoral and cell-mediated immune responses to herpes zoster vaccine in subjects with diabetes mellitus.
Hata A, Inoue F, Yamasaki M, Fujikawa J, Kawasaki Y, Hamamoto Y, Honjo S, Moriishi E, Mori Y, Koshiyama H. Department of Infectious Diseases, Kitano Hospital, The Tazuke Kofukai Medical Research Institute, J Infect. 2013 Apr 18. pii: S0163-4453(13)00099-6. doi: 10.1016/j.jinf.2013.04.010.
- Safety and efficacy of peramivir in the treatment of influenza.
Atsuko Hata ¹⁾, Ryoko Akashi-Ueda, Kazufumi Takamatsu and Takuro Matsumura Department of Infectious Diseases, Kitano Hospital, The Tazuke Kofukai Medical Research Institute, Drug Design, Development and Therapy. *in press*, 2014
- Fulminant pseudomembranous colitis caused by Clostridium difficile PCR ribotype 027 in a healthy young woman in Japan
Satoshi Nishimura ^a, Tadayuki Kou ^a, Haru Kato ^b, Masaki Watanabe ^a, Shoichi Uno ^c, Mitsutoshi Senoh ^b, Tadashi Fukuda ^b, Atsuko Hata ^c, Shujiro Yazumi ^a, ^a Digestive Disease Center, The Tazuke Kofukai Medical Research Institute, Kitano Hospital, Osaka, Japan

b Department of Bacteriology II, National Institute of Infectious Diseases, Tokyo, Japan
c Department of Infectious Diseases, The Tazuke Kofukai Medical Research Institute,
Kitano Hospital, Osaka, Japan

(4) 学会発表

- ・ 7th Vaccine and ISV Annual Congress 2013 Sitges, Barcelona, Spain, 27th October 2013
“Safety, humoral and cell-mediated immune responses to Oka varicella vaccine in subjects with diabetes mellitus.”
Atsuko Hata^{*1}, Fukue Inoue¹, Midori Yamasaki², Jun Fujikawa², Yukiko Kawasaki³, Yoshiyuki Hamamoto³, Sachiko Honjo³, Eiko Moriishi⁴, Yasuko Mori^{4, 5} and Hiroyuki Koshiyama³
1. Department of Infectious Diseases, 2. Department of Laboratory Medicine and 3. Center for Diabetes and Endocrinology, Kitano Hospital, The Tazuke Kofukai Medical Research Institute, Osaka, Japan
4. Laboratory of Virology and Vaccinology, Division of Biomedical Research, National Institute of Biomedical Innovation, Osaka, Japan 5. Division of Clinical Virology, Department of Microbiology and Infectious Diseases, Kobe University Graduate School of Medicine, Kobe, Japan
- ・ 第15回日本ワクチン学会学術集会
開催日：平成25年12月1日（日）
開催場所：三重県津市
演題：「高齢糖尿病患者における水痘ワクチンの有効性の検討-二重盲検プラセボ対照ランダム化比較試験」
口演：北野病院 感染症科 羽田 敦子
- ・ 第27回近畿小児科学会 ランチョンセミナー
開催日：平成26年3月9日（日）
開催場所：奈良県文化会館
演題：「免疫不全と感染症」
口演：北野病院 小児科・感染症科 羽田 敦子

(5) 院外活動、地域医療との関わり

- ・ 大正富山講演会
開催日：平成25年7月11日（木）
開催場所：大正富山製薬株式会社
演題：「ICT活動と抗菌薬の適正使用」
口演：北野病院 感染症科 羽田 敦子

- ・ 第1回薬剤師感染対策フォーラム
開催日：平成25年7月13日（土）
開催場所：日本赤十字社和歌山医療センター
演題：「感染症治療における薬剤師の役割」
口演：北野病院 薬剤部 感染症科 上田 覚

- ・ 小児科イブニングカンファレンス講演会
開催日：平成25年9月28日（土）
開催場所：琵琶湖ホテル
演題：「最近の小児感染症のトピックス～ロタウイルス胃腸炎を中心に」
口演：北野病院 小児科・感染症科 羽田 敦子

- ・ 府立小児科勉強会
開催日：平成25年10月17日（木）
開催場所：大阪府立急性期・総合医療センター
演題：「感染症とワクチン」
口演：北野病院 小児科・感染症科 羽田 敦子

- ・ 大阪府内科医会主催講演会
開催日：平成25年10月23日（水）
開催場所：エーザイ株式会社 大阪コミュニケーションオフィス
演題：「感染症とワクチン」
口演：北野病院 小児科・感染症科 羽田 敦子

- ・ 第11回北大阪感染症研究会
開催日：平成26年2月21日（金）
開催場所：北野病院 きたのホール
一般講演：座長 北野病院 感染症科 羽田 敦子
同呼吸器内科 高松和史先生「脳腫瘍の治療に難渋した播種性ノカルジア症」
同消化器内科「PCR ribotype 027 菌クロストリジウム・ディフィシル劇症型腸炎」
同感染症科・総合内科「当院におけるB型肝炎ウイルス再活性化防止対策～検査情報抽出ツールをいれたアラートシステム～」
特別講演：座長 北野病院 血液内科 主任部長 有馬靖佳
特別講演：「免疫不全者の感染症臨床」国立国際医療研究センター 感染症内科 大曲貴夫先生

- ・ 第2回 近畿 LAMP 研究会（K-LAMP）
開催日：平成26年3月30日（土）
開催場所：野村コンファレンスプラザ大阪御堂筋

演題：「あったらいいな LAMP 法～小児科でも」

口演：北野病院 小児科・感染症科 羽田 敦子

4. 今後の課題

- (1) 標準予防策・接触感染防止対策の正しい理解と浸透
- (2) 職員教育：定期的の実効力のある講習会の開催および達成度の評価
- (3) 耐性菌対策
 - ① 発生を防止するための監視体制の強化
 - ② ICT 院内ラウンドの充実
- (4) 病院内感染症発生
 - ① 早期に察知するための監視体制の強化
 - ② アウトブレイクまたは類似の状況への早期介入
- (5) 血液曝露事故防止策の強化
- (6) SSI サーベイランスの充実
- (7) 抗菌薬の適正使用
 - ① ICT ラウンドによる抗菌剤の適正使用についての相談・監視の継続
 - ② 感染症治療のコンサルテーションの体制整備
 - ③ 薬剤耐性菌の傾向分析とその啓発
 - ④ 当院独自の治療マニュアル作成
- (8) 定期的な院内感染対策マニュアルの更新
- (9) 院外発表（学会発表、論文発表）などでの活動内容を発表
- (10) 研究活動（単独研究及び院外施設との共同研究）
- (11) 構成員の感染制御に対する資格取得

以上